

受発注者の協力で、事故のない工事現場を目指す！

令和8年度 工事事務防止 重点的安全対策

令和7年度に建設工事における事故が、40件(内公衆災害＝30件)発生し、増加傾向にあります。近年の事故発生事例の傾向を踏まえて、「令和8年度 工事事務防止 重点的安全対策」(対策1～5)を定めました。

現場代理人の皆様におかれましては、各対策に十分留意され、工事中の事故を防止するため、適切な安全対策を講じるようお願いいたします。

【対策1】各現場・各作業に応じた危険予知と安全意識を共有する

- 施工の各段階における危険予知を踏まえた、安全対策を施工計画書へ記載する。
- 安全対策を現場作業員に確実に周知し、安全意識の啓発を図る。
- 日常的なヒヤリハット等の情報を共有し、その対策を講じる。

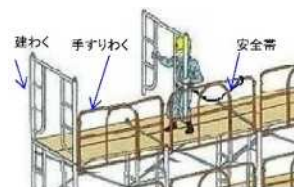
【対策2】第三者の負傷・第三者車両等に対する損害の防止（公衆災害の防止）

- 交通関係法令を遵守し、適切な交通誘導と安全な動線を確保する。
- 開口部(掘削、マンホール等)、段差等は確実に養生する。
- 掘削での埋設物の損傷を防ぐため、事前調査を徹底する。
- 各養生(柵、シート等)は適切に設置・管理する。



【対策3】建設機械等による事故の防止

- 作業に応じた適切な建設機械を選定し、使用時は監視人や誘導員等を適切に配置し作業する。
- 架空線の接触、転倒等の危険予知を盛り込んだ作業計画書を作成し、作業員に周知する。
- 必要な有資格者を配置し、安全な運転操作を徹底する。



【対策4】足場・法面等からの墜落事故防止

- 適正で安全な足場を設置し、作業にあたり、点検を確実に実施する。
- 適正な墜落制止用器具(フルハーネス、安全帯等)を選定し、正しく装着する。

【対策5】熱中症対策の強化

- 熱中症予防と管理体制を構築し、作業員の体調管理を徹底する。
- 熱中症者の重篤化を防止するために必要な手順を作成し、作業員に周知する。



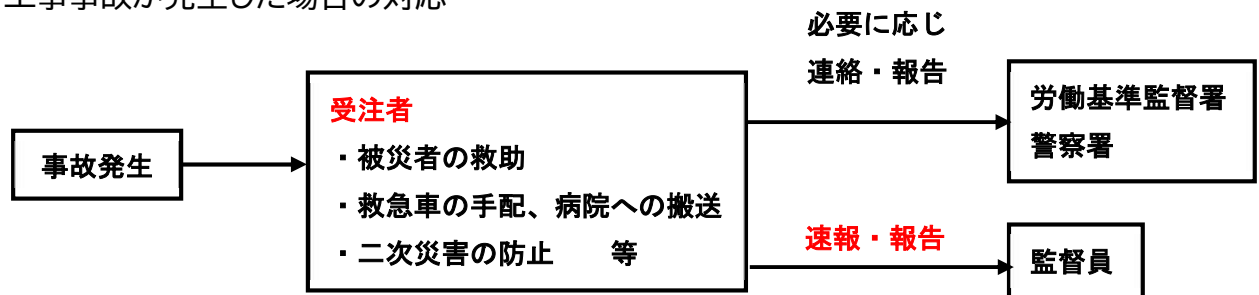
※【別紙】に、事故発生件数、事故事例を添付しておりますので、参考としてください。

【別紙】北九州市発注工事等における事故発生状況

○本市発注工事の事故発生件数 「合計の()内は公衆災害」

	土木	建築	設備	合計
令和7年度	17	15	8	40(30)
令和6年度	21	10	3	34(25)
令和5年度	17	8	6	31(11)
令和4年度	9	11	5	25(18)
令和3年度	12	8	5	25(15)

★工事事故が発生した場合の対応



○令和7年度の事事故事例

事例	工事種類	事故の型	事故概要	事故原因
1	環境整備事業 (土木)	公衆災害	環境整備事業(マンホール嵩上げ)に伴い、マンホール蓋を外すとともに30cm程掘削していたところ、当該掘削箇所に一般の乗用車が落ち込んだもの。	ガードマン一時不在(一時、持ち場を離れていた) 立入防止装置等の未実施

事故状況写真



事故状況 (バンパーの破損)



事故状況 (タイヤ1本のパンク)

事例	工事種類	事故の型	事故概要	事故原因
2	道路改築工事 (土木)	公衆災害	スタビライザーにて路床改良中にマンションに繋がる配水管(φ200mm)を破損させた。	配水管情報共有の不足(現地立会未実施、発注課と監督課間の情報共有不足) 道路改築計画の情報未共有

事故状況写真



事例	工事種類	事故の型	事故概要	事故原因
3	配水管布設工事 (土木)	公衆災害	バックホウに大型ブレーカーを装着してコンクリート構造物を破砕したところ、電力ケーブルを損傷し、停電が発生した。 工事図面上には同ケーブルの記載がなく、埋設表示テープもなかった。	コンクリート構造物の下部に電力ケーブルが巻き込まれており、認識されないまま損傷させた。

事故状況写真



事例	工事種類	事故の型	事故概要	事故原因
4	駐車場整備工事(土木)	公衆災害	照明柱を撤去するため、重機のアームを電柱方向に旋回したところ、NTTの架空線にバックホウが接触し電線を切断。	重機オペレーターが架空線に気付かなかった。(不注意)

事故状況写真



事例	工事種類	事故の型	事故概要	事故原因
5	側溝補修工事(土木)	労働災害(その他)	側溝据え付け工事中にバックホウが転倒し、床掘部にて据え付け作業を行っていた作業員に、吊り上げていた側溝が接触し、右腕を負傷した。	バックホウの排土板を下げたまま急発進したことでバランスを崩して転倒した。

事故状況写真

